

修士論文の評価基準（臨床心理学専攻）

1. 実証研究であること。臨床心理学の各分野に適切、かつ必要な知識を創造する研究課題が選択されていること。
2. 研究課題と内容が臨床心理実践の各分野に明確に関連していること。
3. 調査結果についてある程度の一般化、または、普遍化が可能であること。
(例：ある特定の施設・機関で調査が行なわれていても、結果がその施設・機関だけに当てはまるのではなく、より広くその分野全般に当てはまるようになること。結果がその施設・機関だけに当てはまる事例研究の方法もあるが、そこでの発見が、より広くその分野全般に当てはまる真理の追究につながること。それにより、内的妥当性、外的妥当性が検証されていること。)
4. 研究課題についての徹底的な文献調査が行なわれていること。
(文献調査は、日本語の文献だけでなく、世界を視野に入れ、外国語の文献を含む必要もある。文献調査の結果、今までの研究ですでに分かっていることと、分かっていることが明確にされていること。)
5. 研究・論証方法が明確であり、選択された方法にそって忠実に実証研究が行なわれていること。研究方法は、大きく分けると事例研究法による質的研究法と数量的研究法、またその両方を組み合わせる方法がある。
6. 使用されているデータの分析方法が、明確であること。データは自分で収集したものに限定せず、政府等により発表された既存の「二次的統計資料」を加えて使用することも可能であること。
7. データの分析と解釈が論理的、かつ適切に行なわれていること。
8. 心理学の研究における論文執筆のルールに則って、構成・記載が行われていること。
9. 論文が始めから結論にいたるまで論理的に展開し、展開の方法が明確に記述されていることが望ましい。

※ 9項目すべての基準を満たすことが必要。